

中学入試ガイドンス

1. 入試概要

◆ 帰国生の受け入れ校

■ 国立大学附属中学校

国立大学附属中学では、帰国生徒に対する教育的配慮に基づき指導とそのための実践的研究を行う目的で帰国子女教育学級を設置しています。

教科学習においてかなりの遅れや欠落がある生徒等を対象に、学習の回復と学校生活への対応を目的に普通学級とは異なるカリキュラムを用いる学校や、普通学級への混合受入方式で個々の生徒の状況に応じた指導を行う学校もあります。

《 帰国子女教育学級を設置している中学校 》

- ・お茶の水女子大学附属
- ・愛知教育大学附属名古屋
- ・京都教育大学附属桃山

《 普通学級への混合受入方式の中学校 》

- ・埼玉大学教育学部附属
- ・千葉大学教育学部附属
- ・東京学芸大学附属国際中等教育
- ・横浜国立大学教育学部附属鎌倉
- ・横浜国立大学教育学部附属横浜
- ・静岡大学教育学部附属島田
- ・大阪教育大学附属池田
- ・神戸大学附属中等教育学校

《 国立大学附属中学の通学区域 》

- 埼玉大学教育学部附属 : さいたま市・川口市・戸田市・蕨市
- 千葉大学教育学部附属 : 千葉市・習志野市・船橋市・市川市・八千代市・四街道市・佐倉市・市原市
(通学時間が公共の交通機関を使って片道60分以内)
- お茶の水女子大学附属
《東京都》 23区・清瀬市・小金井市・国分寺市・小平市・狛江市・調布市・西東京市・東久留米市・東村山市・府中市・三鷹市・武蔵野市
《埼玉県》 さいたま市(浦和区・大宮区・北区・桜区・中央区・緑区・南区)・朝霞市・川口市・志木市・草加市・戸田市・新座市・富士見市・ふじみ野市・三郷市・三芳町・八潮市・和光市・蕨市
《千葉県》 市川市・浦安市・流山市・松戸市
- 横浜国立大学教育学部附属鎌倉
神奈川県内に居住している。
ただし、次の内容を満たすものとする。
① 登下校において時間、距離、交通手段等、安全が確保できる。
② 行事によって、朝早く登校したり、下校が遅くなったりすることなどがあり、その対応ができる。
③ 本人の病気、けが、緊急時等、必要がある場合、保護者がすみやかに迎えに来ることができる。
- 横浜国立大学教育学部附属横浜
《指定地域》 川崎市・横浜市・横須賀市・逗子市・藤沢市・茅ヶ崎市・綾瀬市・海老名市・座間市・大和市・寒川町・葉山町
《指定小学校区》
相模原市立小学校校区
(若松・鹿島台・谷口・鶴園・南大野・くぬぎ台・東林・鶴の台・谷口台・相模台・もえぎ台・相武台・緑台)
平塚市立小学校校区
(富士見・崇善・松原・なでしこ・花水・港)
- 静岡大学教育学部附属島田
公共の交通機関を利用して、概ね1時間で通学できる範囲内
- 愛知教育大学附属名古屋
本校への通学に要する時間に無理がない

○京都教育大学附属桃山

通学に要する時間がほぼ1時間までの地域

○大阪教育大学附属池田

1時間30分以内で通学可能な下記の地区内

《大阪府下》 大阪市(西淀川・東淀川・淀川・此花・福島・中央・都島・旭・北・西・城東・鶴見・東成・大正・港の各区)・池田市・豊中市・箕面市・茨木市・摂津市・吹田市・高槻市・守口市・門真市・能勢町・豊能町・島本町

《兵庫県下》 川西市・伊丹市・尼崎市・宝塚市・西宮市・芦屋市・猪名川町

○神戸大学附属中等教育学校

公共交通機関、あるいは徒歩で始業時刻までに無理なく登校できる地域に居住

■ 公立中学校

公立中学では、所定の手続きをとれば随時地域の公立中学の年齢相当学年に転入学可能です。基本的には教育委員会が指定する「学区制」が実施されていますが、近年では「学校選択制」を実施している地域が増え、公立でも学校を選ぶことが可能になってきています。

学校選択制 : 就学校の指定に当たり、あらかじめ保護者の意見を聴取するもの。学校選択制については、便宜上以下のような形態に分類。

《自由選択制》 当該区市町村内のすべての学校について選択を認めるもの

《ブロック選択制》 当該区市町村内をブロックに分け、そのブロック内の学校について選択を認めるもの

《隣接区域選択制》 従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の学校について選択を認めるもの

《特認校制》 従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく当該区市町村のどこからでも選択を認めるもの

《特定地域選択制》 従来の通学区域は残したままで、特定の地域に居住する者について、学校選択を認めるもの

《 東京都学校選択制度実施状況(2022年度) 》

《自由選択制》 千代田区・中央区・港区・新宿区・文京区・台東区・墨田区・江東区・品川区・渋谷区・荒川区・板橋区・練馬区・足立区・江戸川区・調布市・町田市・八王子市・西東京市・武蔵村山市・清瀬市

《隣接区域選択制》 目黒区・豊島区・立川市

《特定地域選択制》 国分寺市

《ブロック選択制》 日野市

《特認校制》 青梅市

■ 私立中学校

私立中学では、別枠の定員を設ける、一般枠の入試科目より科目数を削減する、英語を課すなど、独自の選考基準で帰国枠入試を実施する中学校が首都圏を中心に増えてきています。

◆ 帰国枠入試資格・条件

帰国枠で出願・受験する場合には、学校によって定められた出願資格・条件を満たす必要があります。その資格・条件は、海外(継続または通算)滞在年数、現地校・インター校、または日本人学校の在籍年数や帰国後の期間制限など、各中学校によって細かく決められています。その年数や制限も各中学校により異なりますので、詳細は出願予定の中学校の入試要項で必ず事前に確認してください。資格・条件に合わない場合には、基本的に帰国枠での受験はできませんが、資格・条件に近い場合には、個別に相談に応じてくれる場合もありますので、各中学校に直接問い合わせてみるのが大切です。

■ 主要中学帰国枠資格条件例(海外滞在年数・帰国後の期間制限)

《国立大学附属中学・公立中高一貫校》

■ 首都圏

《東京都》

【東京学芸大学附属国際中等教育(2022年度入試)】

次のaかbのいずれかに該当する者

- a 国内小学校を卒業する見込みの者
- b 日本の義務教育6か年修了相当の教育を受けた者

【東京都立川国際中等教育・白鷗(2022年度入試)】

どちらかに該当する者とする。

- (ア) 海外に連続して2年以上在住している者(連続した2箇学年の課程を修了する見込みの者又は既に修了した者も含む)
- (イ) 海外に連続して2年以上在住した者(連続した2箇学年の課程を修了する見込みの者又は既に修了した者も含む)で、入学日現在帰国後原則として2年以内の者

《神奈川県》

【横浜国立大学教育学部附属鎌倉(2022年度入試)】

在外生活経験継続して2ヶ年以上で、原則として、2019年8月1日から2022年3月31日までに帰国または帰国予定の者

【横浜国立大学教育学部附属横浜(2022年度入試)】

在外生活経験年数2年以上継続して海外に在住し、原則として、2019年8月1日～2022年3月31日までに帰国または帰国予定の児童

《千葉県》

【千葉大学教育学部附属(2022年度入試)】

2016年4月1日から2022年3月31日までの期間中において、在外生活が2年以上にわたる者で、2019年3月1日から2022年3月31日までに、帰国又は帰国予定の者

《埼玉県》

【埼玉大学教育学部附属(2022年度入試)】

海外生活経験年数連続2か年以上、帰国後1か年以内の者

■ 東海圏

《愛知県》

【愛知教育大学附属名古屋(2022年度入試)】

- (1) 在外生活経験年数が継続して3か年以上、帰国後1か年以内の者
- (2) 在留国での通学校が現地校または国際学校(インターナショナルスクール)で、継続して3か年以上通学していた者

■ 関西圏

《大阪府》

【大阪教育大学附属池田(2022年度入試)】

日本人学校の場合は、在外校在籍期間が継続して3年以上、現地校(インターナショナルスクールを含む)の場合は、在外校在籍期間が継続して2年以上、いずれも選考日からさかのぼって帰国後2年以内の者

《京都府》

【京都教育大学附属桃山(2022年度入試)】

義務教育の就学期間において、在外期間が2年5ヶ月以上で帰国後2か年(24ヶ月)以内の者。ただし、日本人学校に在籍していた場合は、在外期間が3年5ヶ月以上の者

《兵庫県》

【神戸大学附属中等教育(2022年度入試)】

海外生活期間通算2年以上で、帰国直後又は帰国後1年以内の者

【兵庫県立芦屋国際中等教育(2022年度入試)】

帰国6年未満で、継続して1年以上海外に在住経験がある。

《私立中学》

■ 首都圏

《東京都》

【跡見学園(2022年度入試)】

原則として、海外在住期間が1年以上で、帰国後3年以内の者(2018年12月1日以降帰国の者)

【都文館(2022年度入試)】

外国における在住期間が1年以上で、帰国後3年以内

【穎明館(2023年度入試)】

原則として海外滞在が1年以上であり、帰国後3年以内(原則として、帰国が小学校3年生の12月1日以降)である。

【江戸川女子(2022年度入試)】

原則として海外に1年以上在住し、帰国後3年以内(2019年4月以降の帰国)の者

【桜美林(2023年度入試)】

海外に1年以上滞在し、帰国して3年以内の児童

【駒友学園女子(2022年度入試)】

海外経験1年以上、帰国後3年以内を原則

【大妻(2023年度入試)】

継続して1年以上海外に在住し、帰国後3年以内(2020年3月1日以降に帰国)の者

【大妻多摩(2022年度入試)】

海外在住経験が累積で1年以上あり、次のいずれかの条件を満たすこと

- ・国内の小学校に4年生～6年生で編入帰国した児童であること
- ・2022年4月6日までに帰国し、4月7日の入学式以降出席できること

【大妻中野(2023年度入試)】

1年以上海外に在留し、2020年4月1日以降に帰国した者。もしくはこれに準ずる者

【海城(2022年度入試)】

2017年4月1日から2023年3月31日までの間に通算2年以上海外に在住し、かつ、2020年7月1日以降に帰国した方

【開智日本橋学園(2023年度入試)】

海外生活1年以上、帰国後3年以内の者。もしくは、国内のインターナショナルスクールに6年間在籍する者(ただし、一条校で中学部が存在する小学校は除く)

【かえつ有明(2023年度入試)】

《A・H選考》海外の教育機関に学齢期において1年以上通学した児童。

海外の現地校、またはインターナショナルスクールで学齢期において教育を受けた児童。国内のインターナショナルスクール通学者もこれに準ずる。

《R選考》海外の教育機関に学齢期において1年以上通学した児童

【学習院(2023年度入試)】

下のいずれかの条件を満たしていること。

- (1)すでに帰国している児童の場合
海外に在住し、かつ2019年12月1日以降に国内の小学校に転・編入した児童で、海外に在住している期間が以下のいずれかであること
- ① 帰国した日からさかのぼって継続して2年以上
 - ② 2016年6月1日以降に通算して3年以上
- (2)現在海外在住中の児童の場合
海外に在住している期間が、以下のいずれかであること
- ① 2022年12月4日までに継続して2年以上
 - ② 2016年6月1日以降、2022年12月4日までに通算して3年以上

【学習院女子(2022年度入試)】

下記のいずれかの条件を満たす者

- (ア)すでに帰国している児童の場合
2019年12月1日以降国内の小学校に転・編入した児童であり、海外在留期間が、
- (1) 帰国した日からさかのぼって継続して1年6か月以上
 - (2) 2015年9月1日以降に通算して2年6か月以上
- のいずれかであること
- (イ)現在海外在留中の児童の場合
海外在留期間が、
- (1) 2021年12月1日時点で継続して1年6か月以上
 - (2) 2015年9月1日以降2021年12月1日までに通算して2年6か月以上のいずれかであり、2022年3月末日までに帰国予定の児童であること

【暁星(2022年度入試)】

海外小学校での生活が通算2年以上、帰国後3年以内の者

【共立女子(2023年度入試)】

原則として海外在住1年以上で、帰国後3年以内の者

【恵泉女学園(2023年度入試)】

海外で小学校教育を1年以上受けた者で、日本の小学校の在籍が満5年に満たない者。

【啓明学園(2022年度入試)】

次のいずれかの条件を満たす者

- ① 1年以上海外に滞在し、原則として帰国後3年以内の者
- ② 国内インターナショナルスクールに2年以上在籍している者

【工学院大学附属(2022年度入試)】

海外での滞在経験が1年以上あり、帰国後3年以内の者

【攻玉社(2023年度入試)】

2023年1月1日現在で、継続して海外在住2年以上5年未満の者は、帰国後2年6ヶ月以内であること。継続して海外在住5年以上の者は、帰国後3年以内であること

【佼成学園(2022年度入試)】

海外で1年以上、帰国後3年以内の者

【佼成学園女子(2022年度入試)】

次のいずれかの条件を満たす者

- ① 原則として、海外での滞在経験1年以上、帰国後3年以内の者
- ③ 国内インターナショナルスクール卒業(卒業予定)の者

【香蘭女学校(2023年度入試)】

原則として海外在住1年以上、帰国後2年以内の生徒

【サレジアン国際学園(2022年度入試)】

海外在留1年以上、出願時帰国後3年以内(出願時)の者

【実践女子学園(2023年度入試)】

海外在留1年以上、出願時帰国後3年以内(出願時)の者

【品川女子学院(2022年度入試)】

継続して1年以上海外の小学校に在籍、2018年11月15日以降帰国した者

【渋谷教育学園渋谷(2023年度入試)】

試験日までに海外在留2年以上、帰国後2年以内の者

【芝浦工業大学附属(2023年度入試)】

(本校会場) 海外の学校に連続して2年間以上在籍し、出願時点で帰国後2年以内の者
(シンガポール会場) 海外の学校に連続して1年半以上在籍し、出願時点で海外在住の者

【淑徳(2023年度入試)】

1年以上在留し、帰国後3年以内(入試日から起算)

【順天(2022年度入試)】

海外生活1年以上、帰国後3年以内の者

【頌栄女子学院(2023年度入試)】

海外在住1年以上、原則として帰国後3年以内の者

【城北(2022年度入試)】

1年を超える期間海外に在留し、帰国後3年以内(2019年1月1日以降に帰国)の者

【昭和女子大学附属昭和(2023年度入試)】

海外在住1年以上、帰国後3年以内の者

【白百合学園(2023年度入試)】

2023年3月31日までに継続して1年7ヶ月以上海外に在住し、2019年12月1日以降に帰国した者、または、2023年3月末日までに帰国予定の者

【巣鴨(2022年度入試)】

海外在住1年以上で、帰国後3年以内の者

【成蹊(2022年度入試)】

(国際学級)

次の要件を全て満たした者

- (1) 2年以上海外に在住した者
 - (2) 現地校またはインターナショナル校(幼稚園は除く)に2年以上在籍していた者
 - (3) 2019年12月1日以降に帰国した者、または帰国予定の者(一般入試-帰国生枠)
- 次の要件を全て満たした者
- ① 1年以上海外に在住した者
 - ② 海外の学校(現地校、日本人学校、インターナショナル校等)に1年以上在籍していた者(幼稚園は除く)
 - ③ 2019年12月1日以降に帰国した者、または帰国予定の者。

【成城学園(2022年度入試)】

1年を超える期間海外に在住し、帰国後3年以内(2019年3月以降に帰国)したの者

【聖心女学院(2023年度入試)】

次のいずれかの条件を満たす者

- ① 継続して2年以上海外に在留し、2020年3月1日以降に帰国した者
- ② 出願時に、海外在留中で在留期間が継続して2年以上となり、2023年3月末日までに帰国予定の者

【青稜(2022年度入試)】

1年以上海外に滞在し、帰国後3年以内の者

【高輪(2023年度入試)】

2年以上継続して海外に在留し、その在留より帰国後試験日まで2年7ヶ月以内の者(2020年6月1日以降帰国の者)。

【中央大学附属(2023年度入試)】

下記のいずれかを満たすこと

- (ア) 2019年4月～2023年3月における海外在学期間の合計が1年6ヶ月以上であること
- (イ) 上記(ア)における海外在学期間が1年6ヶ月に満たない場合は、2017年4月～2023年3月における海外在学期間の合計が3年以上であること

【田園調布学園(2023年度入試)】

海外の学校在籍が通算で1年以上あり、2020年4月1日以降に帰国した者

【東京女学館(2023年度入試)】

1年以上の海外生活があり、帰国後3年以内(2019年12月1日以降に帰国)

【東京都市大学等々力(2022年度入試)】

以下のいずれかに該当する者

- ① 現在国内に在住し、海外在住1年以上で原則帰国後3年以内の者
- ② 現在海外に在住し、2022年4月1日までの海外在住期間が1年以上の者

【東京都市大学付属(2022年度入試)】

日本の義務教育期間における海外就学期間が通算1年以上で、2022年度入学試験の出願時点で、日本への帰国から3年以内の者

【桐朋女子(2023年度入試)】

海外での生活がおよそ1年以上で、帰国日が2020年4月1日以降であること。

【東洋英和女学院(2023年度入試)】

下記のいずれかの条件を満たす者。

- (1) すでに帰国している児童の場合
継続して1年以上海外に在住し、2021年3月1日以降に帰国した者
- (2) 現在海外に在住している児童の場合
2021年3月31日までに継続して1年以上海外に在住し、2023年3月31日までに帰国予定の者

【豊島岡女子学園(2022年度入試)】

1年を超える期間海外に在留し、帰国後3年以内の者

【ドルトン国際学園(2022年度入試)】

(帰国生型海外オンライン)

海外在住期間が1年以上あり、受験時に海外に在住している者
(帰国生型国内)

海外在住期間が1年以上あり、帰国後3年以内の者

【広尾学園(2023年度入試)】

海外在住経験が1年以上あり、帰国後3年以内の帰国生

【広尾学園小石川(2022年度入試)】

海外在住経験が1年以上あり、帰国後3年以内の者

【富士見丘(2023年度入試)】

海外在学期間1年以上、帰国後3年以内の者

【文化学園大学杉並(2023年度入試)】

原則として海外在留期間1年以上、帰国後3年以内

【宝仙学園理数インター(2023年度入試)】

(世界現地入試)(世界オンライン入試)

海外の現地校・インターナショナルスクール・日本人学校に在籍し、受験時に海外に居住している者

(日本入試)

在外期間1年以上、帰国後3年以内で、海外の学校、あるいは国内インターナショナルスクール卒業(卒業予定)の者

【本郷(2022年度入試)】

1年を超える期間海外に在留し、帰国後3年以内(2019年4月1日以降)の者

【三田国際学園(2023年度入試)】

海外に継続して1年以上在住し、帰国後3年以内(2020年4月以降帰国)の者

【三輪田学園(2023年度入試)】

1年以上海外に在住し、帰国後3年以内の方(小学校3年生の11月以降に帰国)

【目白研心(2023年度入試)】

(オンライン入試)

海外居住1年以上で、現在海外に居住している者
(日本入試)

原則海外居住期間が1年以上で、帰国後3年以内である者

【八雲学園(2023年度入試)】

原則として海外在住1年以上で帰国後3年以内の者

【山脇学園(2022年度入試)】

海外に1年以上在住し、海外の学校に1年以上在学した方、または2022年3月までに1年以上在住、在学することになる方で、帰国後3年以内で2022年3月に小学校卒業見込みの方、または2022年3月までに帰国する方。

【立教池袋(2023年度入試)】

次の両方の条件に該当する児童。

- ① 原則として試験日時時点で、海外在留期間中または、帰国してから2年以内の学齢児童であること
- ② 海外在留中は、日本人学校または現地校等に在籍し、その中に小学校以上に当たる学年に継続して2年以上の在籍経験があること

【立教女学院(2023年度入試)】

下記のいずれかの条件を満たす者

- ① 2021年4月1日以降国内の小学校へ編入(通学)し、直近の上記の目的に該当する海外在留期間が継続して2年以上の者
- ② 現在、海外在留中で2023年3月31日までに帰国予定であり、かつ、上記の目的に該当する海外在留期間が継続して2年以上になる者

【早稲田(2023年度入試)】

以下の条件を満たす者。

海外滞在期間	帰国日(予定日を含む)
継続して2年以上3年未満	2022年1月1日以降
継続して3年以上	2021年1月1日以降

【早稲田大学系属早稲田実業(2023年度入試)】

下記のいずれかの条件を満たしていること

- (1) 滞在期間が継続して1年9ヵ月以上3年未満の場合、2022年1月1日～2023年3月31日の帰国
- (2) 滞在期間が継続して3年以上の場合、2021年1月1日以降の帰国

《神奈川県》

【青山学院横浜英和(2023年度入試)】

海外滞在1年以上、2019年3月1日以降に帰国

【神奈川大学附属(2022年度入試)】

海外で教育を受け、滞在期間が帰国時まで継続して1年以上、かつ2018年4月以降に帰国した者

【鎌倉学園(2022年度入試)】

原則として海外滞在1年以上、帰国後約2年以内(選考日まで)

【鎌倉女学院(2023年度入試)】

2023年3月に小学校を卒業見込みで、海外在住経験のある方

【カリタス女子(2022年度入試)】

- ・帰国生12月試験:海外に1年以上滞在し、2022年3月に小学校を卒業見込み、または、国内のインターに在籍する者
- ・帰国生12月オンライン試験:海外に1年以上滞在し、2022年3月に小学校を卒業見込みの者で、試験当日も海外在住の者

【公文国際学園(2022年度入試)】

2016年4月以降、海外の教育機関に1年以上在籍の者
(国内インターナショナルスクール在籍者もこれに準ずる)

【慶應義塾湘南藤沢(2022年度入試)】

下記の条件のいずれかを満たしている者

- ① 2019年4月1日から2022年3月31日までの3年間に通算1年6ヶ月以上、国外に在住した者
- ② 2015年9月1日から2022年3月31日までの6年7ヶ月の間に通算3年間以上、国外に在住した者

注: 国外の学校の学期終了が国内の学校の学期開始と一致しない等の理由で、通算3年間以上の算出に不明な点がある場合は、お問い合わせください。

【湘南白百合学園(2022年度入試)】

通算して1年以上海外の学校に在籍し、2018年3月以降に帰国した者、もしくはそれに準じる者

【逗子開成(2022年度入試)】

外国における滞在期間が帰国時まで継続して1年以上で、2019年4月以降に帰国した者

【聖光学院(2023年度入試)】

2017年4月以降の海外在住期間が通算1年以上、または出願時に国内インターナショナルスクールに在籍

【聖セシリア女子(2023年度入試)】

海外在住1年以上で、2020年1月以降に帰国の方(原則として)

【洗足学園(2023年度入試)】

2009年4月2日～2010年4月1日に生まれた女子

【桐蔭学園中等教育(2022年度入試)】

2017年3月以降に帰国して、海外在留期間が1年以上の児童

【桐光学園(2022年度入試)】

海外在住期間が通算1年以上で、2018年1月以降に帰国した者。またはそれに準ずる者(国内インターナショナルスクールに4年以上在籍している者)

【日本女子大学附属(2022年度入試)】

次のいずれかを満たすこと。

- (1) 現在海外の学校に在籍中の方で、2022年3月末までに、
 - ① 継続して2年以上海外の学校に在籍していること
 - ② 小学校生活のうち通算3年以上海外の学校に在籍していること
- (2) 小学5年生4月以降に日本の小学校に戻った方で、
 - ① 帰国直前まで継続して2年以上海外の学校に在籍していること
 - ② 小学校生活のうち通算3年以上海外の学校に在籍していること

【日本大学(2022年度入試)】

次のいずれかの条件を満たしている者

- (1) 2021年11月1日現在、海外での滞在期間が1年以上あり、2018年3月以降に帰国の者
- (2) 2021年11月1日現在、海外の学校(海外現地学校・全日制日本人学校・インターナショナル校)に1年以上在籍している者

【法政大学第二(2022年度入試)】

海外在留期間が1年以上で、帰国が2018年3月以降であること

【聖園女学院(2022年度入試)】

2009年4月2日～2010年4月1日に生まれた女子

【森村学園(2022年度入試)】

海外に1年以上滞在し、2018年1月以降に帰国した児童

【横浜女学院(2022年度入試)】

・A方式(海外在留型):海外に1年以上滞在し、試験日に海外在留中であること

・B方式、C方式:海外滞在1年以上、帰国後3年以内

【横浜翠陵(2022年度入試)】

原則として海外在留2年以上で帰国後2年以内の者

【横浜雙葉(2023年度入試)】

海外での生活を連続1年以上経験し、出願時に帰国後3年未満の者

《千葉県》**【市川(2023年度入試)】**

海外滞在期間が1年以上の者

【芝浦工業大学柏(2022年度入試)】

海外に2年以上在住し、かつ帰国後2年以内

【渋谷教育学園幕張(2022年度入試)】

2009年4月2日から2010年4月1日までに生まれた者

【昭和学院(2022年度入試)】

海外に1年以上滞在し、帰国後3年以内(2019年以降の児童)

【専修大学松戸(2022年度入試)】

海外在住1年以上、小学校入学後に帰国した者

【東邦大学付属東邦(2022年度入試)】

次のいずれかの条件を満たすこと

- (1) 海外での就学期間が2年以上である者
- (2) 海外での就学期間が1年以上で次のいずれかの条件を満たす者
 - ① 海外の学校に在籍していること
 - ② 国内の小学校に在籍し、帰国後3年以内であること

【麗澤(2022年度入試)】

海外の学校に通算1年以上在籍し、帰国後3年以内

《埼玉県》**【大妻嵐山(2023年度入試)】**

海外在留期間が小学1年生以降継続して1年以上の者

【開智(2022年度入試)】

海外生活1年以上、帰国後3年以内の者

【栄東(2022年度入試)】

海外在留1年以上、帰国後3年以内の方

【昌平(2023年度入試)】

海外に継続して2年以上在住し、帰国後3年以内の者

【獨協埼玉(2022年度入試)】

2年以上海外に在住し、日本の小学校で5年次または6年次の就学年齢に帰国した者(帰国予定を含む)

【立教新座(2023年度入試)】

次のいずれかの条件に該当する者

- (1) 海外在留期間が継続して1年以上で、帰国後1年以内の者
- (2) 海外在住期間が継続して2年以上で、帰国後2年以内の者

《茨城県》**【江戸川学園取手(2022年度入試)】**

海外の学校に通算1年以上在籍し、帰国後3年以内の者

【土浦日本大学中等教育(2022年度入試)】

下記のいずれかに該当する者

- ① 海外在住期間が2年以上で、帰国後3年以内の者
- ② 海外在住期間が1年以上で、その期間中、現地校またはインターナショナルスクールに在籍し、帰国後3年以内の者
- ③ 国内のインターナショナルスクールに在籍する者
- ④ 国内の学校に在籍し、特に英語学習の進んでいる者(TOEFL iBT42点以上、またはTOEIC550点以上、または英検2級以上、またはそれらに同等の英語力のあると認められた者)

【茗溪学園(2022年度入試)】

日本の小学校学齢期にあたる6年間のうち、以下のいずれかに該当する者

- (1) 海外在留3年以上
- (2) 小学校3～6年にあたる期間のうち海外在留2年以上
- (3) 現地校・インター校に現在在学中に在学期間1年以上

■ 東海圏**《愛知県》****【愛知淑徳(2022年度入試)】**

海外に引き続き1年以上滞在し、帰国後1年以内(5年生の12月1日以降に帰国した場合を含む)の者

【海陽中等教育(2023年度入試)】

以下のどちらかの条件にあてはまる者

- (1) 海外在住経験2年以上、かつ出願時点で帰国後3年以内の者
- (2) 出願より遡って5年以内に国内の外国学校において教育を2年以上受けた者

【名古屋(2022年度入試)】

海外在住が試験日までに概ね2年以上、かつ帰国後概ね2年以内者

■ 関西圏**《大阪府》****【大阪女学院(2022年度入試)】**

- (1) 小学校5年生12月以前に帰国し海外のインターナショナル小学校または、英語で授業が行われている現地小学校に2年6ヶ月以上在籍していた者
- (2) 日本国内のインターナショナル小学校に通算2年6ヶ月以上在籍し、卒業見込みの者

【関西学院千里国際(2022年度入試)】

海外在留期間が1年以上2年未満の場合は帰国から入試日までの期間が2年以内

海外在留期間が2年以上の場合は帰国から入試日までの期間が3年以内

【金蘭千里(2022年度入試)】

- (1) 2017年4月1日以降、合計1年以上海外で居住していた者
- (2) 2021年4月1日以降、合計6か月以上海外で居住していた者

《京都府》

【同志社国際(2022年度入試)】

(帰国生徒の認定)

つぎのいずれかに該当する者

- (1) 海外在留期間が1年6ヶ月以上の者で、帰国後の期間が海外在留期間を越えない者
- (2) 海外在留期間が5年6ヶ月以上の者
 - ＜注1＞ 帰国後の期間とは、最終帰国の日から当該入学試験の日まで
 - ＜注2＞ 海外在留期間は、3ヶ月以上連続した、保護者に帯同した全海外在留期間を加算
 - ＜注3＞ A選考に出願する場合、正規の学校に3ヶ月以上連続して在籍し、1回以上の正式な成績表が発行された本人の留学期間は、海外在留期間に加算
 - ＜注4＞ B選考に出願する場合、海外在留期間に本人の留学期間は含まない。

(出願資格)

つぎのいずれかに該当する者

- (1) 外国の学校教育(国内の外国学校を含む)における6年生の課程を修了した者、または、2022年7月末までに修了見込みの者
- (2) 文部科学大臣の指定を受けた海外の全日制日本人学校小学部を卒業した者、または、卒業見込みの者
- (3) 国内小学校を卒業した者、または、卒業見込みの者
- (4) その他、相当年齢に達し、本校において、小学校を卒業した者と同等の学力があると認めた者

【東山(2022年度入試)】

原則として海外在住1年以上、かつ帰国後約2年以内(受験日まで)の者

【立命館宇治(2022年度入試)】

日本の義務教育期間における海外就学期間が1ヶ年以上の者で、次のいずれかに該当する者

- (1) 外国の学校教育における6学年の課程(日本の義務教育の小学校の課程に相当)を修了した者、または2022年6月までに修了見込みの者
- (2) 文部科学大臣の指定を受けた海外の全日制日本人学校の小学部を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者
- (3) 国内の小学校と同等のインターナショナルスクールにおいて6学年の課程を修了した者、または2022年6月までに修了見込みの者

《滋賀県》

【立命館守山(2023年度入試)】

次のいずれかの要件をみたしていること

- (1) 海外の全日制日本人学校小学部の第6学年に在籍中の者
- (2) 海外の全日制日本人学校小学部を対象年度に卒業見込の者
- (3) 海外の教育機関に6ヶ月以上在籍し、出願時にも在籍している者
※在籍期間は海外在留期間全てを算入できます。
※日本国内の小学校から帰国生徒入学試験への出願はできません。

《三重県》

【鈴鹿中等教育(2022年度入試)】

2年以上海外に在住し、帰国後2年以内であること

【セントヨゼフ女子学園(2022年度入試)】

1年以上海外に在留し、帰国後3年未満の者

《奈良県》

【育英西(2022年度入試)】

以下のいずれかに該当するしている者

- (1) 海外日本人学校に通算2年以上在籍、帰国後2年以内の者
- (2) 海外現地小学校に通算2年以上在籍、帰国後2年以内の者
- (3) 国内・外インター校に2年以上在籍し、帰国後2年以内の者

【西大和学園(2022年度入試)】

外国で教育を受け、海外在留期間が1年以上の者

《和歌山県》

【初芝橋本(2022年度入試)】

海外在留期間が2年間以上で、帰国後の期間が1年間以内の者

《兵庫県》

【小仏聖心女子学院(2022年度入試)】

原則として2年以上海外に在住し帰国後1年以内であること。ただし、海外在留期間が4年以上の場合は、帰国後2年以内を可とする。

【関西学院(2022年度入試)】

小学校中高学年において海外での在住年数が2年以上で、現地校もしくはインターナショナルスクールに在籍していた者が望ましい。

【啓明学院(2022年度入試)】

海外在留2年以上、帰国後2年以内

【甲南(2022年度入試)】

次のいずれかに該当する者

- (1) 海外に1年以上在住し、帰国後半年以内であること
- (2) 海外に2年以上在住し、帰国後1年以内であること
- (3) 海外に4年以上在住し、帰国後2年以内であること

【神戸龍谷(2022年度入試)】

次のいずれかに該当する者

- (1) 日本における小学校6年間の課程の内、海外の現地校または日本人学校、またはインターナショナルスクールにおいて1年以上履修で、帰国後3年以内である者
- (2) 海外在留期間が5年以上の者
- (3) 英語検定準2級以上、あるいはそれと同等の英語力を有する者
- (4) 日本国内のインターナショナルスクールにおいて、3年以内に1年以上履修した者
- (5) 英語での日常生活に支障のない者

【雲雀丘学園(2023年度入試)】

1年6ヶ月以上海外に在留した経験をもち、かつ帰国後3年を経っていない者(入試日を基準とする)

■ その他

《広島県》

【如水館(2022年度入試)】

海外に連続1年以上在学して、原則として帰国後2年以内であること

【広島城北(2022年度入試)】

1年以上継続して海外に居住し、帰国後国内での居住が1年以内の者

【広島女学院(2022年度入試)】

原則として2年以上海外に居住し、帰国後2年以内の者

【広島なぎさ(2022年度入試)】

外国における在留期間が2年以上で、帰国後の期間が1年以内の者

《福岡県》

【上智福岡(2022年度入試)】

海外滞在期間については時に制限はありません。

【福岡女学院(2022年度入試)】

海外在留期間が1年以上で、帰国後2年以内

◆ 帰国枠入試日程

■ 首都圏

《東京都・神奈川県》

私立中学校の一般入試の解禁日は2月1日ですが、帰国枠入試はそれ以前に実施することが可能です。この解禁日以前に入試を行っている中学校は、海外・帰国生の独自入試を一般入試と切り離して実施しています。その他の中学校は、2月1日以降の一般入試と同じ日程になります。入試日程をうまく調整すれば幅広く受験校を選択することができますが、合格発表日の数日後に手続き締切日になる学校もありますので、その日程もスケジュールに組み込んでおく必要があります。また、人気校の競争率は一般入試よりも高くなることもありますので、しっかりとした受験準備が必要になります。

以下は一般入試と別日程で帰国枠入試を実施している主要中学校です。

《10月・11月実施校》

◎がついている学校は、2023年度の入試日程を表しています。

男子校	共学校・別学校	女子校
《東京都》		
◎佼成学園①②	開智日本橋学園① ◎かえつ有明 A・R ◎工学院大学附属① ◎サレジオ国際学園① ◎サレジオ国際学園世田谷① ◎芝国際① ◎自由学園① ◎聖徳学園① ◎東京成徳大学 ◎広尾学園小石川 AG① ◎文化学園大学杉並① ◎三田国際学園① 明星 ◎武蔵野大学 ◎目白研心①②	◎江戸川女子 ◎大妻多摩 ◎大妻中野① ◎神田女学園① ◎共立女子 国本女子①② ◎麹町学園女子 ◎佼成学園女子① ◎実践女子学園 ◎品川女子学院 ◎十文字 ◎昭和女子大学附属昭和 ◎女子聖学院 聖ドミニコ学園 東京女子学院① ◎富士見丘① ◎三輪田学園 ◎山脇学園 I 期 ◎和洋九段女子

《神奈川県・埼玉県》

	◎開智 ◎関東学院	◎横浜女学院①
--	-----------	---------

《12月実施校》

◎がついている学校は、2023年度の入試日程を表しています。

男子校	共学校・別学校	女子校
《東京都》		
◎学習院 暁星 ◎京華 ◎佼成学園③ ◎聖学院 ◎立教池袋	郁文館 ◎桜美林 ◎かえつ有明 H 開智日本橋学園② ◎啓明学園 ◎工学院大学附属② 駒込 ◎サレジオ国際学園② ◎サレジオ国際学園世田谷② ◎淑徳 ◎淑徳巣鴨実践学園 ◎芝浦工業大学附属 ◎芝国際② ◎順天① ◎城西大学附属城西① ◎聖徳学園② ◎玉川学園 IB ◎帝京 ◎中央大学附属 東京都市大学等々力 ◎ドルトン東京学園① ◎広尾学園 AG・SG・本科・医進 ◎広尾学園小石川 AG②・本科・SG ◎文化学園大学杉並② 文教大学付属 ◎宝仙学園理数インター ◎明星学園 ◎三田国際学園② ◎八雲学園	跡見学園 ◎大妻 ◎大妻中野② ◎神田女学園② 国本女子③ 京華女子 ◎佼成学園女子② ◎頌栄女子学院① ◎聖心女子学院 玉川聖学院① ◎田園調布学園 ◎東京家政大学附属女子 ◎東京女学園 東京女子学院② ◎桐朋女子① ◎トキワ松学園① ◎日本大学豊山女子 藤村女子① ◎文京学院大学女子①② ◎立教女学院

《神奈川県・千葉県・埼玉県》

逗子開成 藤嶺学園藤沢	◎市川 ◎神奈川大学附属 関東学院六浦① 自修館中等教育 ◎昌平 ◎聖ヨゼフ学園① ◎日本大学 森村学園 横須賀学院	◎大妻嵐山 ◎神奈川学園 鎌倉女子大学① ◎カリタス女子 ◎相模女子大学 ◎湘南白百合学園 ◎聖セシリア女子 清泉女学院① 捜真女学校① ◎聖園女学院 ◎横浜女学院② ◎横浜雙葉①
----------------	--	---

《1月実施校》

◎がついている学校は、2023年度の入試日程を表しています。

男子校	共学校・別学校	女子校
《東京都》		
◎海城 ◎攻玉社 ◎佼成学園④ ◎高輪 ◎東京都市大学付属 明法	◎東京都立立川国際 ◎東京都立白鷗附属 ◎穎明館 ◎工学院大学附属③ ◎國學院大学久我山 ◎サレジオ国際学園③ ◎サレジオ国際学園世田谷③ ◎渋谷教育学園渋谷 ◎城西大学附属城西② ◎聖徳学園③ 成蹊(国際学級) 成城学園 青稜 ◎多摩大学目黒 ◎ドルトン東京学園② ◎文化学園大学杉並③ ◎武蔵野東	◎学習院女子 ◎共立女子第二 ◎佼成学園女子③ ◎佼成学園女子③ ◎白百合学園 ◎白梅学園清修 東京女子学院③ ◎桐朋女子② ◎富士見丘② 藤村女子②
《神奈川県・千葉県》		
◎聖光学院	関東学院六浦② 公文国際学園 ◎渋谷教育学園幕張 ◎聖ヨゼフ学園② ◎相洋 ◎桐蔭学園中等教育 ◎桐光学園 法政大学第二	◎函嶺白百合学園 ◎洗足学園

◆ 帰国枠入試選抜方法

国・私立中学の一般入試の科目は、国語・算数・社会・理科の4教科、国語・算数の2教科となります。帰国生入試では、一般入試と同様の4教科や2教科、一般入試とは異なる4教科や2教科(作文を含む場合もあり)、2教科に英語を加えた3教科、英語のみの1教科など、帰国生入試の入試科目は多種多様です。

以下は、一般入試とは別日程の主要中学校の4科目以外の学校で、2023年度および2022年度入試における入試科目(面接試験は除く)の一覧です。各学校の入試要項で確認しておいてください。

■ 首都圏

※「作文」は日本語作文・小論文、「英作」はEssay・Story Writingなどを表しています。

《東京都》

◎がついている学校は、2023年度の入試科目を表しています。

学校名	入試科目
お茶の水女子大学附属	「筆答」
◎東京学芸大学附属国際	A:「作文」or「英作」 B:「適正検査」
◎東京都立立川国際・白鷗	「作文」or「英作」
跡見学園	「国語・算数・作文」
郁文館	「国語・算数」
◎穎明館	「国語・算数」
◎江戸川女子	「英語」or「基礎学力(国語・算数)・英語」 「基礎学力(国語・算数)」
◎桜美林	「国語・算数・英語」から2科
◎大妻	「国語・算数・英語」から2科
◎大妻多摩	「計算・作文」or「計算・英語」
◎大妻中野	「国語・算数」or「英語」
◎海城	「国語・算数」or「国語・算数・英語」
開智日本橋学園	「国語・算数・Essay」
◎かえつ有明	「英語(英作含む)・作文」or「国語・算数」
◎学習院	「国語(作文含む)・算数」
◎学習院女子	「国語・算数・作文」or「国語・算数・英作」
◎神田学園	「国語・英語」
暁星	「国語・算数・英語」or「国語・算数・仏語」
◎共立女子	「国語・算数」or「算数・英語」
◎共立女子第二	「国語・算数」
◎京華	「国語・算数」or「算数・英語」
京華女子	「国語・算数・英語」から2科
◎啓明学園	「国語・算数」or「作文・英作」or 「作文・外国語作」
◎工学院大学附属	「英語」or「国語・算数・英語」から2科
◎攻玉社	「国語・算数」or「英語」
◎麹町学園女子	「英語」
◎佼成学園	「面接のみ」
◎佼成学園女子	「国語・算数」or「英語」or「死」or「ユ」
◎國學院大學久我山	「国語・算数」or「算数・英語」
駒込	「算数・作文」or「算数・英作」
◎サレジオン国際学園	「国語・算数」or「英語・Essay」
実践学園	「作文・英作」
◎実践女子学園	「算数」
◎芝浦工業大学附属	「国語(作文含む)・算数」
◎芝国際	「英語・算数」or「国語・算数・英語」or 「国語・算数・英語」から2科
◎渋谷教育学園渋谷	「国語・算数・英語」or「国語・算数・作文」
◎十文字	「国語・算数・英語」から2科
◎淑徳	「国語・算数」
◎淑徳巣鴨	「国語・算数・英語」
◎順天	「算数・英語・作文」or「算数・英語」
◎頌栄女子学院	「英(筆記Ⅰ・Ⅱ)・英会話」or 「英(筆記Ⅰ・Ⅱ)・英会話・国語・算数」
◎城西大学附属城西	「国語・算数」or「国語・算数・英語」
◎聖徳学園	「国語・算数・英語」から2科

学校名	入試科目
◎聖徳学園	「国語・算数・英語」から2科
◎昭和女子大学附属昭和	「国語・算数」or「国語・算数・英語」
◎女子聖学院	「算数基礎・作文」
◎白百合学園	「国語・算数・外国語(英語 or 仏語)」
◎聖学院	「英語」or「算数・英語」or「国語・算数」
成蹊(国際学級)	「国語・算数・英語」
成城学園	「国語・算数」
◎聖心女子学院	「国語・算数」
聖ドミニコ学園	「英語・作文」
青稜	「国語・算数」or「国語・算数・英語」
◎高輪	「国語・算数」or「国語・算数・英語」
◎玉川学園	「算数・英語・理科・社会」
玉川聖学院	「算数・英語」or「国語・算数」
◎多摩大学目黒	「作文」
◎中央大学附属	「国語・算数」
◎千代田国際	「国語・算数」or「英作」
◎帝京	「英語・作文」
◎田園調布学園	「国語・算数」or「算数・英語」or「算数」
◎東京女学館	「国語・算数」or「算数・英語」
◎東京成徳大学	「国語・算数」or「算数・英語」
東京都市大学等々力	「国語・算数・作文」or「算数・英語・作文」
◎東京都市大学付属	「国語・算数」or「国語・算数・英語」or 「算数・英語・作文」
◎桐朋女子	「作文(英語 or 仏語 or 独語)」
◎ドルトン東京学園	「作文(日本語・英語)」or「国語・算数」
◎広尾学園	AG「国語・算数・英語」 SG「国語・算数」
◎広尾学園小石川	AG「国語・算数・英語」 SG「国語・算数」
◎富士見丘	「英作・作文」or「国語・算数・英語」から2科
◎普連土学園	「国語・算数・作文(日本語 or 英語)」
◎文化学園大学杉並	「国語・算数」or「国語・算数・英語」
◎文京学院大学女子	「英語」or「国語・算数」or「国語・英語」
文教大学付属	「算数」or「国語・算数」
◎宝仙学園理数インター	「国語・算数」or「算数・英語」
◎三田国際学園	「英語」or「国語・算数・英語」
◎明星学園	「算数・作文」
◎三輪田学園	「算数・国語(作文)」or「算数」
◎武蔵野大学	「国語・算数」or「英作」
◎武蔵野東	「国語・算数」or「算数・英語」
明星	「面接のみ」
明法	「国語・算数」
◎目白研心	「英語」or「国語・算数」
◎八雲学園	「国語・算数」or「算数・英語」
◎山脇学園	「国語」or「算数」or「国語・算数」
◎立教池袋	「国語・算数」
◎立教女学院	「国語・算数・作文」
◎和洋九段女子	「英語」or「国語・算数・英語」から2科

《神奈川県》

学校名	入試科目
◎神奈川学園	「国語・算数・英語」or「国語・算数・作文」
神奈川大学附属	「算数・英語」
鎌倉女子大学	「作文」
◎カリタス女子	「算数・英語・作文」or「算数・仏語・作文」
◎関東学院	「国語・算数」or「算数・英語」
関東学院六浦	「算数・作文」
◎函嶺白百合学園	「国語・算数」or「英語・作文」
公文国際学園	「英語・適性検査」
◎相模女子大学	「国語・算数・作文」or「算数・英語・作文」
自修館中等教育	「国語・算数・英語」から2科
◎湘南白百合学園	「国語・算数・英語」or「国語・算数」
逗子開成	「国語・算数」or「算数・英語」
◎聖光学院	「国語・算数」or「算数・英語」
◎聖セシリア女子	「国語・算数・英語」から2科 or「適性検査」
清泉女学院	「算数・作文」or「英語・作文」
◎聖ヨゼフ学園	「算数」

《千葉県》

学校名	入試科目
◎千葉大学教育学部附属	「作文」
◎市川	「国語・算数・英語」
◎志学館	「国語・算数」
◎渋谷教育学園幕張	「英語・Essay」
◎秀明八千代	「国語・算数」

《埼玉県》

学校名	入試科目
さいたま市立 大宮国際中等教育	「適性検査」

《茨城県》

学校名	入試科目
茨城キリスト教学園	「国語・算数」
清真学園	「算数・作文」

《栃木県》

学校名	入試科目
◎作新学院(第2回)	「国語・算数」

■ 東海圏

《静岡県》

学校名	入試科目
静岡聖光学院	「事前課題提出」or「口頭試問」

《愛知県》

学校名	入試科目
愛知教育大学附属名古屋	「国語・算数」
名古屋大学教育学部附属	「適性検査」

■ 関西圏

《京都府》

学校名	入試科目
◎同志社国際(A選考)	「英作」
(B選考)	「国語・算数・理科」or 「国語・算数・社会」or「国語・算数・英語」

◎がついている学校は、2023年度の入試科目を表しています。

学校名	入試科目
◎洗足学園	「国語・算数・英語(英会話含む)」or 「英語(英会話含む)」
捜真女学校	「国語・算数」
◎相洋	「国語・算数」
◎桐蔭学園中等教育	「国語・算数」or「算数・英語」
◎桐光学園	「国語・算数・英語」から2科
藤嶺学園藤沢	「国語・算数」
◎日本大学	「国語・算数」or「算数・英語」
◎武相	「国語・算数」
法政大学第二	「国語・算数」
◎聖園女学院	「算数・作文」or「算数・英語」
緑ヶ丘女子	「国語・算数」
森村学園	「国語・算数」or 「国語・算数・英語検定のスコア」
横須賀学院	「国語・算数」or「国語」or「算数」
◎横浜女学院	「国語・算数・作文」or「国語・英語・作文」 「算数・英語・作文」
◎横浜雙葉	「算数・作文」or「算数」

学校名	入試科目
翔凜	「国語・算数」
◎昭和学院	「国語・算数・英語」から2科
◎東邦大学付属東邦	「国語・算数・英語」
◎二松學舎大学附属柏	「国語・算数・作文」から2科
◎麗澤	「国語・算数・英語」

学校名	入試科目
◎昌平	「国語・算数」or「英語・作文」

学校名	入試科目
◎土浦日本大学中等教育	「英語」or「国語・算数」
◎茗溪学園 (国際生特別選抜)	「国・算・英エッセイ」or「エッセイ(日・英)」or 「国語・算数」

学校名	入試科目
◎佐野日本大学中等教育	「国語・算数」

学校名	入試科目
浜松学芸	「国語・算数」

学校名	入試科目
◎海陽中等教育	「国語・算数」or「国語・算数・英語」

学校名	入試科目
◎立命館宇治(B方式) (IP方式)	「国語・算数」 「算数・小論文(英語)」
(A・国際自己推薦方式)	「小論文(日本語 or 英語)」

◆ 帰国枠入試の主要中学受験状況

入試の難易度は、まずは入試科目およびその入試科目の問題のレベルもありますが、実質倍率も影響を与えます。
以下は、過去2年間の実質倍率(10名以上受験)が2倍以上という高倍率の中学校一覧です。

■ 首都圏 《東京都》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
東京学芸大学附属国際(A方式)	176	34	5.18	東京学芸大学附属国際(A方式)	189	34	5.56
東京学芸大学附属国際(B方式)	161	33	4.88	香蘭女学校	11	2	5.50
渋谷教育学園渋谷(国算英)	121	26	4.65	渋谷教育学園渋谷(国算英)	129	26	4.96
國學院大學久我山	17	4	4.25	東京学芸大学附属国際(B方式)	146	32	4.56
広尾学園(SG)	322	78	4.13	広尾学園(AG)	304	72	4.22
広尾学園(AG)	287	73	3.93	広尾学園(SG)	291	73	3.99
海城(A方式)	125	35	3.57	開智日本橋学園(2回)	84	22	3.82
渋谷教育学園渋谷(国算作)	114	32	3.56	中央大学附属	36	10	3.60
広尾学園小石川(AG・1回)	236	71	3.32	開智日本橋学園(1回)	151	44	3.43
海城(B方式)	68	21	3.24	東京都市大学付属(B方式・2科)	24	7	3.43
開智日本橋学園(1回)	154	49	3.14	立教池袋	102	33	3.09
開智日本橋学園(2回)	54	20	2.70	広尾学園小石川(AG・1回)	241	80	3.01
立教池袋	98	33	2.97	三田国際学園(1回)	235	80	2.94
広尾学園小石川(SG・本科)	196	69	2.84	海城(B方式)	73	25	2.92
三田国際学園(1回)	278	99	2.81	國學院大學久我山	17	6	2.83
中央大学附属	28	10	2.80	渋谷教育学園渋谷(国算作)	100	37	2.70
三田国際学園(2回)	131	47	2.79	広尾学園小石川(SG)	139	52	2.67
暁星	44	17	2.59	広尾学園小石川(AG・2回)	149	62	2.40
広尾学園小石川(AG・2回)	165	65	2.54	海城(A方式)	93	40	2.33
かえつ有明(Regular選考)	128	52	2.46	芝浦工業大学附属	14	6	2.33
ドルトン東京学園(2回)	17	7	2.43	東京都立白鷗高等学校附属	54	24	2.25
江戸川女子	21	9	2.33	三田国際学園(2回)	112	51	2.20
頌栄女子学院(2月)	25	12	2.08	立教女学院	65	30	2.17
学習院女子	40	20	2.00	白百合学園	75	35	2.14
攻玉社(英語)	84	42	2.00	高輪	19	9	2.11
				暁星	33	16	2.06
				東京都市大学付属(A方式)	106	52	2.04
				攻玉社(国算)	70	35	2.00

《神奈川県》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
青山学院横浜英和	18	4	4.50	聖光学院	138	33	4.18
聖光学院	144	35	4.11	慶應義塾湘南藤沢	157	41	3.83
慶應義塾湘南藤沢	148	41	3.61	洗足学園(B方式)	92	34	2.71
逗子開成(英・算)	17	7	2.43	洗足学園(A方式)	110	46	2.39
洗足学園(B方式)	85	36	2.36	公文国際学園	41	18	2.28
桐蔭学園中等教育	55	24	2.29	逗子開成	60	28	2.14
逗子開成(国・算)	44	21	2.10	森村学園(国・算)	14	7	2.00
洗足学園(A方式)	84	40	2.10				
公文国際学園	33	16	2.06				
神奈川大学附属	32	16	2.00				

《千葉県・埼玉県》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
渋谷教育学園幕張	170	35	4.86	栄東	36	8	4.50
立教新座	14	3	4.67	渋谷教育学園幕張	148	34	4.35
市川(12月)	84	39	2.15	市川(12月)	95	39	2.44
栄東	17	8	2.13	市川(1月)	73	35	2.09
				東邦大学付属東邦	72	36	2.00

■ 東海圏・関西圏

《京都府・奈良県》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
該当中学なし				同志社国際(1月B選考)	18	7	2.57
				高槻	31	14	2.21
				同志社国際(12月A選考・併願)	16	8	2.00

以下は、受験者が多い学校(複数回受験者を含む)が50名以上という中学校一覧です。

■ 首都圏 《東京都》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
広尾学園	609	151	4.03	広尾学園	595	145	4.10
広尾学園小石川	597	205	2.91	かえつ有明	567	432	1.31
かえつ有明	591	361	1.64	広尾学園小石川	529	194	2.73
三田国際学園	409	146	2.80	三田国際学園	347	131	2.65
東京学芸大学附属国際	337	67	5.03	東京学芸大学附属国際中等教育	335	66	5.08
東京都市大学付属	276	151	1.83	東京都市大学付属	262	158	1.66
渋谷教育学園渋谷	246	58	4.24	開智日本橋学園	239	66	3.58
山脇学園	220	162	1.36	渋谷教育学園渋谷	229	63	3.63
開智日本橋学園	208	69	3.01	東京都市大学等々力	225	133	1.69
東京都市大学等々力	197	135	1.46	頤栄女子学院	175	91	1.92
海城	193	56	3.45	海城	166	65	2.55
青稜	181	109	1.66	共立女子	156	117	1.33
頤栄女子学院	170	97	1.75	攻玉社	125	67	1.87
攻玉社	136	71	1.92	立教池袋	102	33	3.09
共立女子	132	98	1.35	大妻	99	62	1.60
大妻	102	66	1.55	大妻中野	96	94	1.02
文化学園大学杉並	99	92	1.08	東京女学館	80	56	1.43
立教池袋	98	33	2.97	文化学園大学杉並	80	76	1.05
大妻中野	95	88	1.08	白百合学園	75	35	2.14
学習院	68	41	1.66	学習院	73	47	1.55
東京女学館	67	57	1.18	鷗友学園女子	72	32	2.25
鷗友学園女子	64	27	2.37	立教女学院	65	30	2.17
昭和女子大学附属昭和	59	49	1.20	東京都立立川国際中等教育	58	30	1.93
				東京都立白鷗高等学校附属	54	24	2.25
				青稜	53	35	1.51

■ 首都圏 《千葉県・埼玉県》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
渋谷教育学園幕張	170	35	4.86	市川	168	74	2.27
市川	145	74	1.96	渋谷教育学園幕張	148	34	4.35
東邦大学付属東邦	50	26	1.92	東邦大学付属東邦	72	36	2.00

《神奈川県》

2022 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
洗足学園	169	76	2.22	洗足学園	202	80	2.53
慶應義塾湘南藤沢	148	41	3.61	慶應義塾湘南藤沢	157	41	3.83
聖光学院	144	35	4.11	聖光学院	138	33	4.18
桐光学園	74	51	1.45	桐光学園	106	64	1.66
逗子開成	61	28	2.18	桐蔭学園中等教育	73	51	1.43
法政大学第二	57	30	1.90	法政大学第二	69	34	2.03
桐蔭学園中等教育	55	24	2.29	日本大学	63	34	1.85
日本大学	55	37	1.49	逗子開成	60	28	2.14

■ 関西圏 《京都府・兵庫県》

2020 年度				2021 年度			
学校名	受験数	合格数	倍率	学校名	受験数	合格数	倍率
立命館宇治	85	47	1.81	立命館宇治	68	47	1.45
				同志社国際	58	37	1.57

◆ 公立中高一貫校

■ 中高一貫教育の概要（文部科学省発表資料より）

（1）導入の趣旨

従来の中学校・高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が 6 年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、中央教育審議会第二次答申（平成 9 年 6 月）の提言を受けて、「学校教育法等の一部を改正する法律」が平成 10 年 6 月に成立し、平成 11 年 4 月より、中高一貫教育を選択的に導入することが可能となりました。

（2）中高一貫教育の実施形態

中高一貫教育については、生徒や保護者のニーズ等に応じて、設置者が適切に対応できるよう、次の 3 つの実施形態があります。

- ① 中等教育学校：
一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うものです。
- ② 併設型の中学校・高等学校：
高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するものです。
- ③ 連携型の中学校・高等学校：
市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態であり、中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるかたちで中高一貫教育を実施するものです。

（3）制度の概要

- ① 中等教育学校：
ア) 中高一貫教育を実施することを目的とする新しい学校種として設けられたものであり、学校教育法において、その目的、目標、修業年限、前期課程と後期課程の区分等について規定しています。
イ) 中等教育学校の教育課程については、前期課程は中学校の基準を、後期課程は高等学校の基準をそれぞれ準用するとともに、中高一貫教育校として特色ある教育課程を編成することができるよう教育課程の基準の特例を設けています。
ウ) 中等教育学校への入学については、設置者の定めるところにより校長がこれを許可することとし、この場合、公立の中等教育学校においては学力検査を行わないこととしています。

② 併設型の中学校・併設型の高等学校：

- ア) 学校教育法において、中等教育学校に準じて、同一の設置者が設置する中学校及び高等学校において中高一貫教育を行うことができることを規定しています。
イ) 併設型の中学校・高等学校の教育課程については、中学校の基準及び高等学校の基準をそれぞれ適用するとともに、中等教育学校と同様の教育課程の基準の特例を設けています。
ウ) 併設型中学校への入学については、設置者の定めるところにより、校長がこれを許可することとし、この場合、公立の併設型中学校においては、学力検査を行わないこととしています。また、併設型高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中学校の生徒については入学者の選抜を行わないこととしています。

③ 連携型の中学校・連携型の高等学校：

- ア) 学校教育法施行規則において、中学校及び高等学校においては、高等学校又は中学校における教育との一貫性に配慮した教育を施すため、当該学校の設置者が設置者間の協議に基づき定めるところ（設置者が同一の場合には設置者の定めるところ）により、教育課程を編成することができるように、当該中学校及び高等学校は、両者が連携してそれぞれの教育課程を実施することを規定しています。また、中高一貫教育として特色ある教育課程を編成することができるよう、教育課程の基準の特例を設けています。
イ) 連携型高等学校における入学者選抜は、設置者間の協議に基づき編成する教育課程に係る連携型中学校の生徒については、調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことができるとしています。

（4）中高一貫教育校の設置推移

連携型・併設型・中等教育学校の総数の推移

2010 年度	271 校	2016 年度	320 校
2011 年度	273 校	2017 年度	325 校
2012 年度	274 校	2018 年度	329 校
2013 年度	270 校	2019 年度	293 校
2014 年度	274 校	2020 年度	296 校
2015 年度	282 校		

2. 受験アドバイス

◆ 学校選びのポイント

日本とは環境も言葉も異なる海外生活を過ごしてきた帰国生にとって、日本(の学校生活)に慣れるというハードルを越えなければならぬため、特に学校選びには細心の注意を払う必要があります。その際にポイントとなることを挙げておきます。

■ 学校情報を集める

(1) 学校の資料を入手する

通学可能圏内にある学校を調べるには、各出版社が出している受験情報誌を参考にしてください。所在地やアクセス方法、設置クラスやコース、教育方針、大学進学実績などの概略はこれでつかめます。

しかし、この情報だけでは他校との違いが詳細な部分まではわかりません。その学校が作成した案内書や校内の情報誌などを入手すると詳細なカリキュラムや生徒および卒業生からの生の声が聞こえてきます。

Q&A

Q: 説明会に参加すると入試で有利ですか

A: 説明会に出席する際、受付で受験生の氏名などを記入する場合があります。その後入試までの期間に、学校から最新の入試情報や文化祭の招待状などの「受験生へのメッセージ」が届くことがあります。そのことで本人の受験に対する気持ちが高まるという点ではメリットがあるかもしれません。しかしながら、可否はあくまでもその学校の可否基準に照らし、提出書類や入試での得点、作文・面接の結果を総合的に判断して決定されますから、説明会への参加が可否に対しての有利不利に関わることは全くありません。

■ 情報を分析・検討する

(1) 校風を検討する

パンフレット内容、電話やメールの対応、来校者への対応、校舎の外観、生徒の雰囲気など、いろいろなところに校風は表れます。入試問題も中学校の特長が表れているので、しっかり活用してください。一つの情報源だけではなかなか判断は困難ですから、こうした情報を各方面から十分に収集し、検討してください。最も大切なことは、生徒自身や保護者が見聞きし、肌で感じ取ることです。学校の校風は、中学生よりも高校生に顕著に表れますので、分析や検討は、中学校だけではなく、高校についてもしっかり検討してください。

(2) 教育方針を検討する

各都道府県で若干差がありますが、公立の中学校は、文部科学省の指導に従いほぼ同一の教育が行われています(中高一貫校を除く)。一方、私立の中学校は、各学校独自の教育方針のもと、個性ある教育を行っています。学校の教育方針は、その学校の具体的行事やカリキュラムに反映されます。学習以外の奉仕活動や芸術活動などを通して人間教育面の活動に力を入れている学校もあります。これまでの学校選びでは、学習面に重きが置かれがちでしたが、学習以外のプラスアルファの部分にも注意を払いましょう。

(2) 学校説明会に参加する

各学校では、生徒やその保護者のための学校説明会や入試説明会を開いています。帰国生対象の説明会も多くあります。また、国内一般生対象の説明会でも終了後に個別相談などがありますので、積極的に参加して情報を収集するようにしてください。

説明会の実施スケジュールは、ホームページなどで告知していますので確認してください。受験校を決定する上で、一時帰国などを利用して、本人を連れて学校訪問をするのはとても大切なことです。説明会の参加が不可能な場合は、入試前に早めに帰国をして、願書を提出する際に一度訪問するのの一つの方法です。

小学6年次は何かと都合がつかないケースもありますので、小学5年次から学校訪問等のスケジュールを立てておく余裕を持った学校選択が可能になります。

近年、東南アジアや欧米の大都市では、中学校の先生が現地に赴き、入試説明会を実施するケースが増えていますので、その機会も積極的に利用してください。

(3) 教育課程を検討する

進学校を選ぶ際には、その学校の進学状況を確認することが学校選びの大事なポイントの一つです。また、教育課程(カリキュラム・シラバス)や使用教材(教科書・問題集)を他の学校とじっくり比較することも重要なことといえるでしょう。これは多くの場合、学校の発行する要項や案内書に掲載されています。前述したようにその学校の教育方針は、具体的に年間行事、教科時間数、単位表などに表れているので注意して案内等を検討するようにしましょう。また、大学附属を選ぶ場合には、系列大学に希望の学部があるかどうかの確認も重要です。

(4) 教育環境や教育施設を検討する

教育環境の一つとして、学校の立地条件があります。教育方針や進学実績が充実していても、最寄駅から学校周辺の環境が合わなければ、学校に通うこと自体が苦痛を伴うことがあります。単なる通学時間だけではなく、最寄駅から学校までの通学ルート周辺の環境も確認しておきたい項目です。

伝統校の古い校舎には風情にも似た味がありますが、近年の新築校舎は、冷暖房は勿論のこと、ハイテク機器やセキュリティ設備が充実しているところが増えています。その他、図書館をはじめとした教育施設やスポーツ施設などの面で、目を見張る充実した設備を備えている学校もあります。帰国生にとっては、学習面以外の芸術やスポーツ活動の継続という点からも、こうした設備は学校選びの要素としておさえておきたい項目となります。なお、校舎を新築した学校は、入学金や授業料において増額や施設費の徴収など費用もそれなりにアップしてきますので、そういった点の確認も必要でしょう。

■ 学力・適性を分析・検討する

前述した項目は、保護者がイニシアティブをとって客観的な分析が可能ですが、子どもの学力・適性の分析は、なかなか客観的に行えないことが多いようです。過大な期待もさることながら、過小評価も子どもたちの学習意欲を損なう原因となることがあるので厄介です。やはり、その子どもの学力・適性を把握している専門家のアドバイスをもとにしながら、親子で対話を重ねていくことが望ましいと言えるでしょう。

有名難関国私立大学の高合格率を掲げ、それらの大学の入試科目を中心とした授業カリキュラムを組んでいるような中・高6年一貫教育の学校では、帰国子女選考を経て入学した帰国生に対して補講を組み、丁寧に指導している学校もありますが、日本の教科学習に慣れていない帰国生は、その補講ですら苦しむケースも少なくありません。内部進学テストの結果、学力不足を理由に併設高校や大学の進学を断念しなければならぬケースもあります。

外国での経験や習得した外国語などを大切に考えてくれる学校を選ぶのか、進度の速いカリキュラムを組んだ学校を選ぶのかは、今後の進路にも多大な影響を与えますので、子どもの経歴を踏まえた学力や適性を見極めは、非常に重要なポイントとなります。

■ もう一つの入試準備（大学進学）

志望校を選ぶ時には、大学進学のことも考えておく必要があります。特に、大学附属の場合は、系列の大学に志望する学部がなければ、附属校を志望校とするメリットは見当たりにません。志望校の大学進学状況の詳細は、確認しておく必要があります。附属校と進学校の進学状況を掲載しておきますので、志望校と比較および検討してみてください。

ここでは、高校からの募集を行っていない学校を掲載していますので、高校募集も行っている学校は、高校入試編に掲載しています。

【学習院中等科】

《 学習院大学（2021 年度） 》

学部	人数	学部	人数
文	9 名	理	6 名
経済	41 名	国際社会	12 名
法	38 名		
卒業生数		内部進学者数	106 名

【学習院女子中等科】

《 学習院大学（2022 年度）：内部進学率 55.0% 》

学部	人数	学部	人数
文	20 名	理	8 名
経済	30 名	国際社会	23 名
法	24 名		
卒業生数	191 名	内部進学者数	105 名

【立教池袋】

《 立教大学への推薦 》

1. 高等学校が定める卒業に必要な単位を修得していること
2. 学校生活上の状況が良好であること
3. 立教大学への進学を希望し、勉学の意志を明確にもっていること
4. 卒業研究論文を提出し、認定されること
5. 英語についての一定の能力を習得していること
6. 高等学校長宛に自己推薦レポートを提出し、認定されること

《 学部・学科の決定方法 》

高校 3 年間の学業成績と卒業研究論文、自己推薦の各評価をポイント化して、その合計で推薦順位を決めます。その順位の上位者から自分の希望の学部・学科を選ぶことができます。

ただし、それぞれ学部・学科には推薦の人数枠があり、その枠を越えた場合は第 2・第 3 志望の学部・学科ということになります。

★★ 学校選びのワンポイント ★★

学校選びは、ややもすると選ぶ順序を間違えてしまいがちです。帰国枠のある学校を第一優先事項にした学校選びはあまりお勧めできません。まずはご家庭の教育方針や本人の性格・適性に合わせて、本当に行きたい、行かせたいと思う学校を選ぶことです。帰国枠があるかどうかは、その次の確認項目にしておくべきでしょう。入学するまでは、どうしても「入りやすさ」が最重要項目に思えますが、もっとも肝心なのは「入学してから」の 6 年間、あるいは大学を含めた 10 年間の学校生活であるのは間違いありません。

《 立教大学（2022 年度）：内部進学率 85.8% 》

学部	人数	学部	人数
法	23 名	コミュニティ福祉	4 名
経済	27 名	経営	16 名
社会	18 名	現代心理	7 名
文	17 名	異文化	6 名
観光	4 名	GLAP	1 名
理	4 名		
卒業生数	148 名	内部進学者数	127 名

【立教女学院】

《 立教大学への推薦 》

現在、受け入れ総数 151 名。2024 年度高校 3 年生より 195 名。以下の要件を満たす者は、立教大学に推薦入学することができます。

1. 卒業条件及び一定の成績基準を満たすこと
2. 卒業論文を提出し、認定されること
3. 英語について一定の基準に達すること（英語検定 2 級程度）
4. 推薦されるにふさわしい生活をしていること
5. 立教大学各学部・学科への進学の意思が明確で強固なこと
6. 立教女学院校長が責任を持って推薦できると、判断されること

《 立教大学（2022 年度）：内部進学率 70.5% 》

学部	人数	学部	人数
法	23 名	コミュニティ福祉	2 名
経済	30 名	経営	15 名
社会	26 名	現代心理	6 名
文	17 名	異文化	6 名
観光	3 名	GLAP	1 名
理	2 名		
卒業生数	183 名	内部進学者数	129 名

■ 面接試験のポイント

入試における面接試験の評価ポイントは、一般的に次のようにまとめることができます。

《 身だしなみ 》

外見だけで人を判断するべきではありませんが、外見がその人の第一印象を決める重要ポイントであることも事実です。日本の文化、習慣＝常識として、公の場に出る際の服装や頭髪などについては、その場にふさわしい身だしなみを心がけましょう。それが相手に対する敬意を示すことにもなるのです。

《 面接官はここを確認する …… 生徒 》

- (1) 学力検査や調査書では測れない受験生の人格や性格、意欲などを見る。
- (2) 事前に提出した調査書の書類などにある疑問点を解消する。
- (3) 受験生の入学する意志を直接確認する。
- (4) 受験生が校風になじめるか、校則を守れるかなどを確認する。

《 面接官はここを確認する …… 保護者 》

- (1) 家庭環境や親子関係から、受験生の人格や性格への影響をみる。
- (2) 保護者の校風や教育方針の理解度から、受験生の学校に対する適合性をみる。

保護者同伴の面接において保護者が気をつけるべきポイントとしてはいくつかありますが、最も気をつけるべき点は、面接官が受験生に対して質問したこと、助け舟のつもりで横から答えてしまわないようにするという点です。また、基本的に、保護者も返答は簡潔にするとともに、家庭円満で受験生が明るく伸びと成長している印象を与えることが第一です。なお、入学に際しては、保護者が学校の教育方針についてきちんと理解しており、それについて基本的な同意があることが前提となっています。このことに抵触するような発言は、もちろん控えるべきでしょう。

★★ 面接対策とは…？ ★★

「面接は苦手」という受験生は多いようです。また、面接練習ということ、予想される質問に対しての答えをあらかじめ暗記してくる受験生もいますが、一般的にこれはあまり良い対策とは言えません。もちろん、ある程度の準備は必要ですし、想定問答の準備、練習自体が全く無意味だというわけではありません。ただ、答えを暗記する必要はないということです。面接官は毎年、何十人、何百人と生徒面接を経験している先生です。質問に対する答えを聞けば、それが暗記してきたものかどうかはすぐにわかります。そのようなとき、面接官は、受験生の本当の姿を知るために、志望動機や海外生活とは関係のない、全く予想していないようなことを質問したり、ひとつのテーマに絞り込んで、そのことについてどんどん掘り下げて質問してきたりします。ですから、いくら事前に答えを準備していてもすべてについて準備しきれものでもないのです。大事なことは、答えを用意して暗記することではなく、これまでの海外生活での豊かな経験や体験を踏まえて自分なりの考えや意見をしっかりと伝えるようにしておくことです。そのためには、これまでの海外での生活を親子で振り返るような機会を設けて、しっかり確認することをお勧めします。また、残された海外生活をさらに前向きに、そして充実させていくことがとても大事です。

■ 作文試験のポイント

入試における作文の評価試験ポイントは、一般的に次のようにまとめることができます。

《 文章表現分野 》

- (1) 原稿用紙の使い方：句読点・記号・符号が適切か、字数制限が守られているかなど。
- (2) 文字の書き方：仮名づかい・送りがな・漢字等が正確か、文字が読みやすく丁寧かなど。
- (3) 語句の使い方：主述の呼応や修飾語と被修飾語の関係が適切か、文体の統一など。

《 文章構成分野 》

- (1) 取材の仕方：課題に合っているか、材料・資料が適切に取り上げられているかなど。
- (2) 構成の仕方：段落区分・段落の順序・展開は適切か、書き出し・結びの工夫など。
- (3) 論旨のまとめ方：筋道の明確さ、主題がまとまっているか、説得力があるかなど。

作文を課すということは、受験生の何を見ようとしているのでしょうか。もちろん基本的な上記のようなことは前提として評価対象になるでしょう。しかし、当然その内容がその高校に入学する生徒としてふさわしいものかどうかという視点で作文を評価していることは間違いありません。そういう意味で、内容的には次の2点を絶対を守るべき事項として念頭に入れておきましょう。

- ① 課題に対して、前向きかつ建設的な姿勢で意見や考えを述べること
- ② 海外での経験や体験から得たものを中学生活に積極的に生かしていこうとする姿勢で書くこと

この2点は、しっかりと頭に入れて作文を書いていく必要があります。どんなにきれいな字で誤字脱字がなく、文法的な誤りもなく、段落構成がしっかりしていようと、この2点をはずしている作文は不可です。また、内容に深みのない作文も評価は低くなってしまいます。内容の深みというのは、常識的、表面的で、自分の本当の考えではない内容のことを指します。

たとえば「戦争をなくすには」という課題があるとします。自分の頭で何も考えていない人は、大体「暴力や命を奪うという行為はいけなくて話し合いで解決すべきだ」という結論を繰り返し述べることになります。しかし、それはあまりにも当たり前で、つまり「常識的」で、「道徳的」で、「表面的」な内容の作文であるといわざるを得ません。深みを出すためには、そこに自分の経験を踏まえ、実際に生きている人間の感情というものを深く考えた上で作文を書いていかなくてはなりません。その結果として、先と同様な結論「話し合いで解決すべきだ」というものであったとしたら、その作文は先の作文とは全く異なる深みのある作文だということができるでしょう。

この例で伝えたいのは、作文においては、正解＝正しいことを述べる必要はないということです。もちろん、「戦争は仕方がないのでとどろきやるべきだ」という結論は論外ですし、「いくら防ごうとしても防ぎようがない」という結論も、先の「前向き」「建設的」という基本に照らしてみると、その評価は好ましいものとはならないでしょう。大切なのは、自分の具体的な経験を踏まえて自らがその問題を前向きに考えるという姿勢で書くということです。作文は単純な「正解」を求めているわけではなく、「あなた」の個性的で前向きな考えや意見を求めているのです。

◆ 入試準備のポイント

一般に中学入試の場合、ご両親の果たす役割は非常に大きいと言えます。特に海外にあっては、まず本人が中学入試をするという自覚を持つことが難しい上に、通っている学校によっても、また地域に塾などの学校外の教育機関があるところ、全くないところなど、個々の教育環境が異なりますので、海外からの受験は、全般に非常に厳しいものになると言わざるを得ません。

本人が入試に向けて一生懸命がんばれるかどうかは、ひとえにご両親の具体的なサポートがあるかどうかにかかっていると言っても過言ではありません。

ご両親の果たすべき役割(入試準備)を簡単に以下にまとめましたので参考にしてください。

ご家庭の教育方針を充分に話し合って明確にし、ご両親がそれを共有する

ご家庭の教育方針とは、子どもを育て教育していく際に最も大切にすべきことは何か、優先順位として何を第一におき、何に目をつぶるかといった具体的な行動の指針になるべき根本になります。これが明確でないと、あふれる情報の中で必要な情報の取捨選択ができず、対応がぶれてしまい、子供への影響も良いものとはならない可能性が大きくなります。

また、話し合いを通じて、お父さん、お母さんの間での意見の食い違いなども明らかになるかもしれません。その話し合いを通して、中学入試に対するご両親の確固たるコンセンサスがとれ、今後入試までのより具体的な教育方針が定まっていくことになります。その際には、「昔は〇〇だった」という古い情報ではなく、最新の情報をベースに話し合ってください。

本帰国の時期、帰国先をいくつか想定し、それに対応した準備を子どもとともに検討する

お仕事の都合で、本帰国の時期が延期になったり、帰国予定先が変更になったりする可能性をなくすることはできません。しかし、何も決めないでいては、間違いなく最後にあわてることになってしまいます。可能性の高い順に、この場合はこの形で、もしもこうなったら、こういう対応でいこう、といった対策をある程度立てておくべきです。

それ以外の全く予想もつかないようなことになっても、その時は想定した形(考え方)に準ずる対応でいこう、といった共通理解を子どもも含めて事前に確認しておくことは大切です。予定に沿って準備をしていれば、変更になった場合でも修正の幅は小さくすみ、あの時あれをやっていたら…という後悔がなくなるでしょう。

学校情報を収集し、子どもに伝えるべき内容を精選し、学習の動機付けになるように伝え方を工夫する

帰国校がある学校から学校選択を始めるのではなく、ご家庭の教育方針や子どもに合った学校かどうかを第一の前提として、ある程度の数の学校を候補にあげましょう。

気を付けるべきことは、子どもにとって魅力的かどうかも考慮してあげることです。制服、校舎や部活など、大人から見ると些細なことのように思われることでも、子どもにとっては学校選択の上で大きな要因になっていることも見逃してはいけません。

もちろんそれだけで決めるわけではありませんが、こういったことを無視してしまうのでは、子どものこれからの入試に向けた学習の動機付けが薄くなる可能性があります。

全体を把握できるご両親だからこそ、バランスをしっかりと考慮した学校を選び、子どもにプラスの情報を与えていくということが肝要です。情報の一方的な押し付けではなく、子どもと一緒に、子どもが主体的に選んでいくというスタイルを演出することです。

本当に受験するかどうかを真剣に判断し、その結論をご家族で遵守する

ある時点(多くの場合は小6の夏休みの前後)で最終結論を出す必要があります。いい加減な準備で「だめもとで受けてみよう」的な中学受験は、たとえ帰国校入試であっても安易なものではありません。

最終結論を出す際には、国・私立中学受験をやめた場合に、帰国予定地域の公立中学の様子、最近設置が進んでいる公立の中高一貫校や編入試験の状況もできる限り調べて、どのような選択があるのかについての検討材料も収集し、確認しておくべきです。

子どもそっちのけでご両親だけが突っ走る受験も好ましくありませんが、中途半端な準備や意識の中で受験に突入していくというのも、あまり良い結果を生むことはないようです。目に見える合否の結果として、たとえどちらになっても、受験に向けた学習経験そのものが、本人にとってプラスになったと言える準備をご両親で演出してください。ゴールは、合格発表だけにあるのではなく、その先の子供の姿にあるのです。

★★ 願書に関する確認事項 ★★

願書の取り寄せ、出願はまさにご両親の役割です。早め早めに手配していくことが大切となります。中学受験は、願書を作成するところから入試が始まっていると考えて間違いありません。

特に海外からの出願においては、在留証明や帰国校受験のための資格を証明するための書類など、国内一般のものよりも準備すべきものは多くなります。さらに、学校以外での活動やその成果を目に見える形でまとめて提出することが求められたり、現地校やインター校に通っていれば、成績などに日本語訳をつけたりしなければならない場合も出てきます。これらは受験校にもよるので一概に必要なとは言えませんが、少なくとも早めに調べておかないと、対応が後手後手に回ってしまいます。

願書の提出方法も確認しておきましょう。最近ではインターネット出願などの方法も増えてきていますが、まだ郵送や窓口出願などの学校も多くあります。そういう場合、基本的には代理出願は避けるべきです。安易にご親戚に依頼しないほうが良いでしょう。これまでも、出願時に詳細を聞かれたり、記入ミスがあったりした際に対応できない、日々の生活が忙しく、うっかり出願締め切りを過ぎてしまった、といったトラブルが起きています。やむを得ず依頼しなければならないような場合でも、最後はご両親が責任を持って確認していくということが大切です。

◆ 入試直前のポイント

海外・帰国生の受験は年内からスタートします。いくつかの学校では、10月ごろから海外会場での入試が実施されていますし、日本国内でも早い学校では11月中旬から帰国枠入試が始まります。つまり、受験校によっては、入試は決して来春の話ではなく、あと3～5ヶ月後(7月末現在)に迫っているということになります。9月以降はまさに願書を取り寄せ、必要書類を整え、出願する計画を組んでいく必要があるわけです。

以下では、一般には12月～2月上旬に集中している日本国内の入試に向けて、これ乗り越えるためにどのようなことに注意が必要なのか、いくつか具体的に注意事項を取り上げて簡単に解説します。

(1) 受験スケジュールを確定させる

入試日や合格発表日以外に、出願期間や併願校の入学手続き締め切りなどにも注意が必要です。次々に合格という「うれしい知らせ」は、入学金等を次々と納入しなければならぬという現実を引き起こすことがありますので、スケジュールの確認をしておきましょう。

(2) 帰国フライトを手配する

この時期(12月～1月)は、一般にどこの国からの帰国便も混雑が予想されます。受験スケジュールが確定しないとフライトの手配も遅れます。遅くとも時差や温度差を考えて、1週間前には帰国して、日本で入試の最終準備をしっかりしてください。

(3) 帰国先の住居(実家・ホテル・ウィークリーマンションなど)を手配する

この時期(1月～2月)は、ホテルやウィークリーマンションも地方からの大学受験生などで混雑します。受験スケジュールをできるだけ早く決定し、予約が必要であるならば早めに申し込むようにしましょう。なお、基本的には、入学手続き終了まではご両親のどちらかが日本に滞在している必要があります。

(4) 入試直前の追い込み、調整のために入試直前講習への参加の手配をする

この時期は、帰国先の地元の塾でも入試の追い込みの時期になっていますので、突然塾を訪ねても断られるケースがあります。春や夏の講習など過去に参加したところにあらかじめ頼んでおくとうれしいでしょう。

(5) 弟妹がいる場合、この期間の弟妹の面倒をどうするか具体的に決めておく

お母さんと一緒に一時帰国して公立の小学校に体験入学させる、あるいはお父さんと滞在国に残る、その場合の食事や洗濯などの身の回りの世話をどうするかなど、早めに、そして具体的に決めておくことが大切です。

(6) お金の準備をする

航空運賃、ホテル代、交通費、食費から始まり、入試直前講習参加費用、冬用・面接用の衣服購入費用(親・子)、床屋・美容院、クリーニングなどなど、予想外の出費がかかります。入学金、授業料、施設保証金など、合格後の出費も当然ありますので、しっかり計算して日本の銀行口座に現金を用意しておきましょう。

(7) 日常生活必需品について

いざウィークリーマンションやホテルに宿泊する場合、必要になる日用品が多く出てくるものです。できれば次のようなものは持参したほうが良いでしょう。

筆記用具一式(定規、コンパス、分度器、のり、はさみ、ホッチキス、クリップ等々)、保険証、予備の眼鏡、印鑑、うがい薬、常用の風邪薬、頭痛薬、体温計、解熱剤、リップクリーム、絆創膏等々(当然帰国後に購入してもかまいませんが、帰国後はかなり多忙でそういった時間をもてないことがありますし、物によってはコンビニ等では購入できないということもあります。)

(8) お父様の帰国を検討してみる

保護者面接がある場合、なるべくお父様の帰国も可能になるように努力してください。毎年多くのお父様が仕事に絡めて一時帰国されているようです。

基本的には以上のようなことをこなしつつ、願書の作成や提出、子どもを入試会場に連れて行ったりしなければなりません。中にはこの合間に本帰国後の住居を探すお母様もいます。子どもの健康管理も大切な仕事のひとつですが、本当は何よりお母様自身が倒れないように自分の体調管理をしっかり行うことが最も大切となります。時差や季節の違いなどに加え、疲労や極度の精神的ストレスなどから来る体調不良でお母様が倒れてしまつては元も子もありません。こうした際のお父様の具体的、精神的サポートは予想以上に大切で、入試突破に向けた大きなファクターともなります。

以上、帰国中学入試は家族全員でしっかりコンセンサスをとって取り組んでいかなければならないということを感じていただけたでしょうか。海外からの中学入試の成功か失敗かという判断は、決して合否結果だけではない、ということを感じていただけたのではないのでしょうか。

入試を通して家族みんなが共有する貴重な体験をこれからの財産にしていきたいと思います。

4月には、希望の学校の制服を着たお子さんと、家族みんなで近くの公園の桜を背景に、「にっこり笑顔の記念写真」といきたいものです。

3. 学習アドバイス

帰国中学受験に向けて、海外ではどんな学習をすれば効果的なのか、過去問をどのようにして入手し、いつまでに終了しておくべきか等々、具体的にその学習方法を考えると難しく、煩雑であることがわかります。これらについての考え方や方法論はいくつもありますが、ここではその中のいくつかのパターンを取り上げておきます。

◆ 学習のポイント

第一志望校、そして第二志望校以下の受験校の入試スタイルを確認してください。帰国枠か一般入試か、入試科目に作文・面接試験はあるか、志望校群の入試科目に著しい隔たりはないか、帰国枠の入試問題のレベルは一般と比較して易しいのか、同レベルなのか、などを確認して今後の学習スケジュールを組み立てていく必要があります。

(1) 帰国枠がなく、一般入試と同じ入試問題

(2) 帰国枠はあるが、一般入試と同じ入試問題(合格基準点を若干考慮する)

このタイプの中学校の入試科目は、国語・算数・理科・社会の4科目が中心になります。学校により出題傾向が異なりますので、市販されている過去問の3年分を中心に、傾向および難易度を確認・分析してください。

入試対策としては、地域に中学入試に対応したコースを設置している塾があれば、通ったほうがよいでしょう。通常はそこでは国内の一般入試とほぼ同様のスケジュールやカリキュラムが組まれ、同じテキストを使って指導しています。それにあわせて学習に集中し、定期的な学力および志望校判定試験で自分の位置を確認しながら、国内の一般受験生と同レベルの質と量を確保した学習が必要となります。特に理科と社会は、自然環境や身近な動植物、社会の仕組みや文化など

が異なりますので、日本国内で準備をする以上の時間がかかるかと想定していた方が無難でしょう。

そういった塾がない地域でこのタイプの入試を受ける場合は、本人、ご家族ともにかなり強い意志が必要となります。普段は通信教育や参考書、問題集を使って自ら学習を進め、長期の休みには一時帰国して講習などに積極的に参加する以外に方法はありません。ただし、受験までのスケジュールをしっかり立てて管理実行することと、質問がある場合にすぐに質問できる環境は必要です。通信教育を利用することも良いですが、可能であれば学校の先生やご両親の協力を求めましょう。

(3) 帰国枠があり、入試科目が国語・算数で、一般入試とは試験内容が異なる

このタイプの中学校の国語・算数のレベルは、学校によって異なります。中学入試の基本問題レベルから一般入試とほぼ同レベルまで幅広く、入試日が一般入試に近づくにつれて、レベルも一般入試に近づく傾向があります。

一般入試に近いレベルの問題を出題する中学校は、前述の(1)(2)と同様の準備が必要になります。一方、基本レベル

を中心に出题する中学校は、難度の高い問題に手をつけるよりは、基本的な問題に集中し、その範囲を100%得点できるように繰り返し演習していく方が合格に近くなります。

基本であれ応用であれ、中学入試問題は、教科書の知識だけでは解けない問題が中心となっていますので、早めに準備をスタートさせてください。

(4) 帰国枠があり、入試科目として国語・算数に加え、英語の試験がある

国語・算数は、(3)と同様に学習してください。英語の試験の対策として、過去問が入手できれば、出題傾向に沿った学習が効果的になります。英検やTOEFLを利用する場合は、ある程度の取捨選択が必要になります。

一般的に、現在身に付いている英語は、会話が通じるという点を優先して習得した英語ということになるでしょうから、文法や文章表現としての英語(正確なスペル、抽象概念の単語量など)の力をきちんとつけていく必要があります。それに

は、難関私立高校入試用や大学入試用の問題集などで文法事項をチェックするのも効果的です。近年の長文読解問題では、英字新聞から出題されるケースも見られますので、英字新聞を読むという習慣も身につけたいところです。

ただし、中には英語よりも国語・算数に比重を置く学校もあるので、事前に教科比重については確認しておくことが大切です。

(5) 帰国枠があり、入試科目が英語(Essayを含む)

このタイプの入試は、現地校やインター校の出身者が対象になります。英語については、(4)と同様に進めてください。このケースでは、幅広い文章読解能力(Reading)と文章作成能力(Writing・Essay)が求められます。

これまでの入試問題を見ると、文法力、語彙力ともに英検

準一級レベルの力が要求されています。その上で、Essayなどの対策として、添削指導を受けていくことができればベストです。なお、このケースでは、面接試験として、英会話やディスカッション・ディベートが加わることも多いので、英語を使っている表現力を磨いておく必要があります。

(6) 帰国枠があり、入試科目が適性試験・面接

このタイプの中学校では、過去問が非公表になっているところが多く、その場合、具体的な問題の傾向に沿った対策をとることは難しくなります。過去問がない場合には、具体的な学習の方向性が見えてこないために非常に不安になりますが、これは他の受験生も同じ条件です。対策としては、A.国語・算数の基本的な学習をしっかりと行う。B.学校での勉強に真剣に取り組む。という2点です。現地校、インター校に通う生徒も学年相当の漢字や計算はできるようにしておきましょう。

大切なのは、その学齢(12歳)として持つべき「教養」を身に付けておくことです。「教養」とは、学科に限らず、困難に直面したときの行動力、未知に対する対処方法などを導く下地になるものです。いわゆる暗記をしたり、公式を使って正答を導いたりするものとは異なる力ですが、それでもこの力の基礎となるのは、やはり学校で習っている事項です。これは自分の判断や考えを確立するための基本になりますから、決しておろそかにしないことです。